

## 静岡県三島市と食品ロス削減に関する連携協定を締結

自治体向けの業務支援を行う株式会社G-Place(本社:京都府長岡京市、代表取締役社長:綾部英寿、以下「当社」)は、2024年8月13日付で、静岡県三島市と食品ロス削減に関する連携協定を締結いたします。また、これにあたり同日に連携協定締結式を行います。

三島市では、市内のごみ減量に継続的に取り組んでおり、2024年3月には「三島市食品ロス削減推進計画」を策定しました。同計画に基づき、三島市は「三島市フードロスゼロ推進店」認定制度を創設し、推進店の募集を開始します。当社は、この制度の普及拡大を支援するため、連携協定に基づき自治体の食品ロス対策としてフードシェアリングを推進するサービス「タベスケ」を無償提供し、同市の食品ロス削減およびごみ減量の取り組みをサポートしてまいります。



### 連携協定締結式について

開催日時：2024年8月13日(火) 14:30開始

開催場所：三島市役所本館2階市長応接室（静岡県三島市北田町4-47）

内容：協定書への署名、フォトセッション(報道機関の方のみご参加いただけます)

取材申込：下記まで事前のご連絡をお願いいたします。

担当課 三島市廃棄物対策課、電話番号 055-971-8993、担当 山添様

### 連携協定について

実施期間：2024年10月1日～2025年9月30日

取組内容：食品ロス対策としてフードシェアリングを推進するサービス「タベスケ」を、三島市が試験導入し、以降は効果分析を行います。三島市では「タベスケ」の市内周知および効果分析を担い、当社は市へのサービスの提供、ユーザー管理および効果分析のサポートなどを担います。

今後の予定：当社から三島市に対して、「タベスケ」を1年間無償提供します。試験期間後、利用状況や削減効果などを分析し、地域に適した運用モデルの構築を目指します。

### 代表者のコメント

「三島市様はこれまで、市民の皆様に向けた定期的な料理講座の開催やレシピの周知等により、家庭から出る食品ロスの削減を重点的に進めていらっしゃいました。このたび、さらなる削減を目指し、市内の小売店や飲食店と市民の皆様のマッチングを行うフードシェアリングサービス「タベスケ」を試験導入していただくこととなりました。なお、静岡県内での「タベスケ」の利用および当社との協定連携締結は、三島市様が初となります。当社は、本連携協定を機に「タベスケ」の導入がより多くの自治体に拡大し、食品ロスの削減が進んでいくことを期待しております。」(株式会社G-Place 代表取締役社長 綾部英寿)

## 自治体向けフードシェアリングサービス「タバスケ」について

「タバスケ」は「あなたの“お得”が地球環境を助けます。」というコンセプトをもとに開発されました。飲食店・食料品店は、まだ食べられるのに廃棄されてしまう可能性の高い食品を「タバスケ」上で安価に出品します。購入者は、出品された中から欲しい商品を「タバスケ」内で購入予約したうえで、商品を出品する店舗に出向き支払いする仕組みです。お得に購入することを通して食品ロス削減に貢献することのできる環境をつくっています。

なお、地方自治体が自治体内の店(飲食店・食料品店)に向けてサービスを提供する形態をとっており、購入者は自治体在住者でなくても無料で利用可能です(※1)。また、商品登録をする飲食店・食料品店も無料で利用できるため、地域の小・中規模店舗でも参加しやすいサービスです。2021年3月1日よりサービス提供を開始し、現在までに25自治体が「タバスケ」を利用してサービスを提供しており、累計の登録ユーザー数72,464人、協力店舗数557店舗、食品ロス削減量28.14トンとなっています(2024年6月30日時点)。 ※1 商品の購入代金は発生します

2024年2月15日には、かねてから要望が多かったアプリ版の提供も開始いたしました。今後も、より使いやすく便利なサービスを目指し、自治体、ユーザー、協力店からの様々な意見を取り入れ、定期的な仕様変更やシステム改善を行ってまいります。



## 世界でも注目される「食品ロス問題」について

2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に基づく「持続可能な開発目標(SDGs)」(※2)でも、食料廃棄の削減が重要な柱として位置付けられるなど「食品ロス」は国際的に重要視されており、日本でも2019年10月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行されました。そして、家庭系及び事業系の食品ロスのいずれについても2030年度までに2000年度比で半減するとの目標が定められています。

その背景には、世界の食料廃棄量が年間約13億トンにのぼり、人の消費のために生産された食料のおおよそ3分の1が廃棄されているという実情があります。また、IPCC土地関係特別報告書で人為的な温室効果ガス排出量の8-10%が食品ロスおよび排気に由来する可能性が示されたこともあり、温暖化対策の観点からもこの問題が注目されています。

2022年度の日本の食品ロス量は年間472万トンであり、前年度比で約9.8%減を達成しています。それでも、WFP(国際連合世界食糧計画)によって世界の飢餓に苦しむ人々に提供された食料支援量(同2022年の年間480万トン)に相当する量が廃棄されています。また、日本の食料自給率(カロリーベース)は38%にとどまっており、食料の多くを海外からの輸入に依存している中で、大量の食品ロスを出していることも問題です。

※2 Sustainable Development Goalsの略称で2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標。目標 12「持続可能な生産消費形態を確保する」において、食料廃棄の減少が重要な柱として位置付けられる。

食品ロスに関する参考資料 (いずれも最終アクセス2024年6月25日)

・「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針 令和2年3月31日閣議決定」

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/promote/pdf/promote\\_200331\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/promote/pdf/promote_200331_0001.pdf)

・食品ロスの削減の推進に関する法律(消費者庁サイト)

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/promote](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/promote)

・食品ロスについて知る・学ぶ(消費者庁サイト)

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/education/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/education/)

・「国連世界食糧計画(WFP)の概要」(外務省 資料)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100577867.pdf>

・IPCC「土地関係特別報告書」の概要(環境省 資料)

[https://www.env.go.jp/earth/ipcc/special\\_reports/srccl\\_overview.pdf](https://www.env.go.jp/earth/ipcc/special_reports/srccl_overview.pdf)

・日本の食料自給率(農林水産省サイト)

[https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/012.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/012.html)

## 当社の掲げるSDGs 目標

当社で掲げるSDGs目標のひとつに「健全で持続可能な社会の実現」があり、この中で「可能なかぎりごみにしない社会を実現する」ことを目標に掲げています。この目標の達成指標として「フードシェアリングサービスの利用拡大により食品ロスを大幅に削減する」ことを置いており、引き続きサービスの普及と利用促進を通して食品ロス削減量を増やしていけるよう取り組んでまいります。

当社のSDGsへの取り組み <https://g-place.co.jp/sustainability/>

## 直近の関連リリース

2024年4月16日リリース

京都府向日市と食品ロス削減に関する連携協定を締結

<https://g-place.co.jp/news/227>

## 株式会社G-Placeについて

1968年に「日本グリーンパックス」として事業をスタート。2019年5月、創業50周年を機に現社名に変更しました。「アイデアで未来をつくる、創造総合商社」を掲げ、さまざまな分野で独自性のある商品やサービスを提供しています。創業から一貫して、全国自治体のごみ減量を支援する事業を柱にしており、現在では、高所安全対策製品や再生樹脂製品の販売、天然成分由来にこだわったオリジナルの化粧品や雑貨類の企画・販売、海外家電製品の輸入販売なども行っています。海外にも拠点を設け、積極的に事業を展開中です。

2020年からは当社の株の100%を一般財団法人辻・山中財団が保有する体制に移行しており、当社の得た収益の一部は配当金として財団に支払われたのち、社会に対し意義のある事業に寄付される仕組みになっています。※辻は「一点しんじょう」が正式表記

株式会社G-Place 公式サイト <https://g-place.co.jp>

一般財団法人辻・山中財団 公式サイト <https://www.tsuji-yamanaka-zaidan.jp/>

## <G-Placeが提供する自治体向けICTサービスラインナップ(一部)>

### ◆ごみスケ <https://gomisuke.jp>

全国150以上の自治体が導入するごみ分別アプリ。ダウンロード数300万以上。昨今需要の高い外国語・やさしい日本語に対応。

### ◆ごみサク <https://www.gomisaku.jp>

家庭ごみの減量化・適正排出を促進し、地球環境に貢献するための分別辞典サイト。地域×品目ごとに、正しい捨て方やリユース方法を簡単に検索可能。

### ◆ソダイシス <https://pr.sodai-sys.jp>

粗大ごみの収集受付や、回収業務を行っている自治体・企業・団体を支援し、市民サービスの向上や業務効率化につながるクラウドシステム。

### ◆タベスケ <https://tabesuke.jp/>

お得に食品を購入したい市民と商品を売り切りたい店舗のニーズをマッチングさせることで、食品ロスの削減を支援する自治体運用型のフードシェアリングサービス。

### ◆ロカスタ <https://locapo.jp/service/locasta/>

農林水産業・飲食店と地産地消に関心のある住民をつなぐ、直売所の情報やイベント情報の発信のためのアプリ。

### ◆マイ避難所DX <https://locapo.jp/service/myhinanjodx/>

避難所の情報を可視化し、受付や集計、報告等などの防災業務をDX化するためのサービス。

### ◆ロカポ <https://locapo.jp>

G-Placeが提供する地域の課題解決・活性化につながる自治体向け製品の検索サイト。



「ごみスケ」トップページ

**【リリースに関するお問い合わせ先】**

株式会社G-Place

経営企画グループ 広報:上山

Email:[kamiyama@g-place.co.jp](mailto:kamiyama@g-place.co.jp)

**【事業に関するお問い合わせ先】**

株式会社G-Place

公共イノベーション事業グループ

東日本営業チーム Email:[kan2@g-place.co.jp](mailto:kan2@g-place.co.jp)

西日本営業チーム Email:[kan1@g-place.co.jp](mailto:kan1@g-place.co.jp)

**【会社概要】**

商号:株式会社G-Place (読み:ジープレイス)

所在地:〒617-0835

京都府長岡京市城の里10-9

創業/設立:1968年5月7日/1969年5月16日

代表取締役社長:綾部英寿

公式HP:<https://g-place.co.jp>

掲載されている情報は発表時点のものです。発表後に内容が変更になる場合がございますので、何卒ご了承ください。